

式 辞

霊峰鳥海は、自然の恵みあふれる生命の源であり、白銀に輝く清らかな勇姿が、眩しい季節となりました。

雄大な鳥海は、コロナ禍の不安の中にあっても、あらゆる生命への活力となるエネルギーを放ち、ふるさとで生きる人々に、勇気と希望、そして心の安らぎを与えてくれます。

本日この良き日に、御来賓と、保護者の皆様の御臨席を賜り、令和3年度秋田県立仁賀保高等学校入学式を挙行できますことを、心から感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可いたしました66名の新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。

早々と咲き誇る満開の桜が、晴れやかな陽春を彩り、皆さんを祝福しています。

皆さんは今、期待と不安を感じつつ、希望と決意を胸に抱いて、入学式に臨んでいるこ

とと思います。皆さんには、一人ひとりが自分を見つめ、文武の道にいそしみながら、なりたい自分を想像して、高校生活を有意義に過ごしてほしいと願っております。

本校は、「自立・克己・友愛」の校訓のもと、生徒一人ひとりを心豊かに育み、その個性と能力を伸ばすことを目標に、昭和52年に開校しました。

開学から26年目の平成15年には、情報メディア科を新設し、情報活用能力を育成するとともに、グローバル社会を支える人間を県内外に輩出して参りました。

また、平成31年1月15日本校は、にかほ市と地域連携に関する協定を結びました。

さらに同年4月には、秋田県の推薦を受け、文部科学省から指導助言をいただきながら「地域との協働による教育改革」を勧めるアソシエイト校として、地域の教育資源を活用した授業や学校行事を積極的に取り入れております。

仁賀保高校は、このように、秋田県やにか

ほ市と連携を密にして「地域の創生」に貢献する学校をめざし、メディアの力を活用して、情報発信に努め、全国に実践を公開して参りました。

昨年度、コロナ禍で急速に進んだICT機器の活用や、オンラインシステムによる教育実践で、本校教職員は、研鑽を積み、メディア科の優位性を活用したチャレンジをしています。

今年度より、生徒1人1台タブレット端末、ホームルーム教室への電子黒板の導入が始まります。

今後は、研修で得た経験知による、学習環境への支援を通して、生徒の学習スタイルや主体的な学びをサポートしてゆきます。

新たな学習指導方法の導入と挑戦に期待してください。

ここで、入学にあたり、皆さんに2つのキーワードを提示します。

1つ目は、「アイコンタクト」です。目は心の窓、相手の心を察知する入り口は目、す

なわちアイです。アイコンタクトを意識して、高校生活を積極的に過ごしてほしいと切に願います。

校訓にある「友愛」は、相手をいたわり、思いやり、尊敬することで生まれる愛情です。「ゆうあい」という響きを英語に直すと、「You = あなた」と「I = 私」です。お互いの気持ちを理解し合い、相手の立場に立って考え、存在と魅力を共有できる高校生になってください。

2つ目は、「トライアル&エラー」です。これは、プログラミングのキーワードです。

何事も、トライすなわち「挑戦」しなければ変わりません。

学習や部活動に積極的に挑戦し、失敗を恐れずに、立ち向かってください。

「エラー」にマイナスイメージを持っている皆さん、「エラー」をプラス思考に変換してください。「エラー」を通して、課題を見だし、成長の一步を踏み出すことができます。「トライアル&エラー」を意識して、堂々と歩んでください。

現代は、グローバル化が急速に進み、インターネットで世界が瞬間的につながる時代です。スピードと合理性が問われる時代だからこそ、一人ひとりが、自分と身近な地域をじっくりと見つめ、本当に大切なことは何か、仁賀保高校のスペシャルな学びから、自分なりの「納得解」を探究する学びに期待します。

本校は現在、変革のまっただ中にあります。

今年度は、生徒会の主体的活動を積極的に支援し、生徒の提案を「師友もろとも手を取りて」共有し検討してゆきます。

また、地域の教育資源である、番楽やジオパークの学習など、体験型の学びを数多く取り入れ、自らが生まれ育ったふるさとの魅力を再認識し、鳥海山の恵みを分かち合う教育を、仁賀保高校で存分に体感してください。

保護者の皆様におかれましては、お子様の御入学、まことにおめでとうございます。高校時代は、大人になるために、もがき苦しみながら成長する時期です。在学中、壁にぶつ

かり悩むことも多いでしょう。その時は、保護者として、人生の先輩として、寄り添い支えていただければ幸いです。

学校は保護者の皆様の御期待に添うべく、お子様の教育に全職員、持てる力を精一杯発揮して参りますので、御理解と御協力をお願い申し上げます、式辞といたします。

令和3年4月6日

秋田県立仁賀保高等学校長 小園 敦